様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　５ 年　６ 月 ２２ 日現在

機関番号：３２４０６
研究種目：基盤研究(B)（一般）
研究期間：2019～2022
課題番号：１９Ｈ０１２８６

研究課題名（和文）大学英語教育の質保証指標モデルとEAP教員コア・コンピテンシー枠組の開発

研究課題名（英文）Development of a Quality Assurance Criteria Model for University English Education and a Core Competency Framework for EAP Practitioners in Japan

研究代表者
飯島　優雅（Iijima, Yuka）

獨協大学・経済学部・教授

研究者番号：５０３３７８３８

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　8,900,000円

研究成果の概要（和文）：日本の大学における学術目的の英語教育（EAP）の課題は、質保証や職能開発の適切な枠組がなく、学生の専門分野との連携が不十分であることである。本研究はこの課題の解決に向け、英国BALEAP学会の認証基準に基づき、日本の環境に適した概念的指標モデル「大学のEAPカリキュラム質保証指標」と「EAP教員コア・コンピテンシー」を開発した。開発にあたり、(1)国内外のカリキュラム・マネジャーへのインタビューを通じて、認証評価基準と実践を調査し、(2)既存のEAP教員コンピテンシー枠組みの日本での適用可能性を検討し、(3)指標モデルを公開するウェブサイト、およびEAP教員自己評価ツール・システムを開発した。

研究成果の学術的意義や社会的意義
本研究は、これまで英語圏を中心に開発されてきた学術目的の英語（EAP）カリキュラム質保証と教員コンピテンシーの参照枠組について、日本の大学英語教育の文脈での妥当性と応用性を学術的に精査した。その結果概ね海外の指標は応用可能であるが、日本の環境では修正が必要な項目があることを明らかにした。今後ますます世界における日本人研究者や専門家の活躍が期待されるなか、本研究の成果物であるカリキュラム質保証と教員能力の指標モデルは、今後の新たなEAPカリキュラムの導入や既存の教育方法の見直し、ファカルティ・ディベロップメントやEAP教員養成など、日本の大学英語教育の発展を支える指針となり得る。

研究成果の概要（英文）：Previous studies have shown that the issues in English for Academic Purposes (EAP) education at Japanese universities include lack of culturally appropriate frameworks for quality assurance (QA) and professional development (PD), as well as inadequate linkage with students' disciplinary studies. To comprehensively address these issues, this study developed two conceptual benchmark models that fit the context of Japanese universities based on the BALEAP's accreditation criteria: one for university EAP curriculum QA and the other for EAP teacher core competency. The development involved (1) investigating accreditation criteria and practice by interviewing curriculum managers in Japan and abroad, (2) examining the applicability of existing EAP teacher competency frameworks to the Japanese context, and (3) developing online resources and a website to publish the benchmark models and a self-assessment tool system for individual EAP teachers to reflect on their teaching practices.

研究分野：英語教育

キーワード：EAP　学術目的の英語　大学英語教育　大学英語カリキュラム　質保証　教員養成　ファカルティ・ディベロップメント

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９（共通）

１．研究開始当初の背景

加速する学術教育研究と産業の国際化を背景に、日本の大学学士課程における学術目的の英語（以下、EAP）のカリキュラム導入が徐々に進んできており、今後もその拡大が見込まれる。その一方で、日本、英国、台湾、香港の大学の EAP カリキュラム運営や質保証に関する実態比較調査では、英語教育と専門教育の連携や日本人学生に適した EAP 教材が十分でないことと、EAP カリキュラム設計・運営の指針となる質保証指標、および体系的な EAP 教員養成が確立されていないことが明らかとなり、国内大学の EAP 教育が、国際通用性の観点からは発展途上にあることが指摘されている（飯島他, 2016; 大学英語教育学会 EAP 調査研究特別委員会, 2018; Terauchi et al., 2020）。これらの課題解決に資する概念的枠組みの提案に向け、本研究は、日本の EAP 教育環境に適した汎用的なカリキュラム質保証と EAP 教員コア・コンピテンシーの指標枠組みモデルの開発を目的とした研究を進めた。

２．研究の目的

以下の３つの研究目的をもとに、それぞれにプロジェクトを立ち上げて取り組んだ。

（１）EAP カリキュラムの指針となりうる、日本国内大学の環境や実態に合う、包括的な「EAP 教育の質保証に向けた指標モデル」を構築すること

（２）EAP 教育質保証の鍵となる、EAP 教員に求められる資質・技能・知識を体系化し、「EAP 教員コア・コンピテンシー枠組」を開発すること

（３）EAP 教育の質保証指標の活用モデルや、EAP 教員コア・コンピテンシー養成を支援するリソースを整備し、教員のコンピテンシー自己評価ツールを開発すること

３．研究の方法

上記（１）～（３）の各目的の研究方法は以下の通り。

（１）EAP カリキュラム質保証指標モデル開発

① 日本には大学英語教育、または EAP カリキュラムを対象とした質保証基準の枠組みは存在しないため、先行する海外の認証評価基準（米国、オーストラリア、英国）や関連枠組み（大学基準協会）の精査

② 認証評価基準の運用実態についての英国での現地２大学 EAP プログラム調査

③ 英国 BALEAP 学会の質保証認証評価基準(BALEAP Accreditation Scheme, BAS) (BALEAP, 2018) の指標の和訳と日本への関連性の分析

④ 国内大学（国・公・私立、文系・理系、全学共通・学部共通英語課程）の EAP カリキュラム設計・運営担当者８人に対し、BAS 指標の日本の大学英語カリキュラム運営における重要性の認識と実施実態を把握するための質問紙と聞き取り調査

⑤ 上記 BAS 指標調査結果をもとに、国内大学の環境に適した EAP カリキュラム質保証指標プロトタイプ１～３を Google Forms で作成。プロトタイプごとに、大学英語カリキュラム運営担当者に内容の妥当性、文言の明確さ、利便性に関する質問紙と聞き取り調査を行い、改善を重ねて指標の最終版を作成

（２）EAP 教員コア・コンピテンシー指標モデル開発

① 先行研究として、国内の英語教師養成に関する枠組みである、JACET 教育問題研究会（2014）が開発した『言語教師のポートフォリオ』（J-POSTL）と、EAP 教師の認証評価基準として英国で使用されている、BALEAP 学会による Competency Framework for Teachers of English for Academic Purposes（CFTEAP）(BALEAP, 2008) を精査

② BALEAP の CFTEAP の和訳を通し、日本の大学における EAP 教育と教員養成において言及されることが少ない、または現状と異なるコンピテンシー（技能、知識）指標を抽出

③ 英国における EAP 教師養成の実態と CFTEAP の利用状況を把握するため、EAP 教師養成コースを開講している大学の運営担当者に質問紙と聞き取り調査

④ CFTEAP の各指標についての明確さ、内容の妥当性、日本国内大学への適用性を調査するため、現役の大学 EAP 教員に対し質問紙と聞き取り調査。日本語版の文言に改善を加えて最終版を作成

（３）EAP 教員自己評価ツール開発と EAP 教育リソース整備

① 上記（２）で作成した EAP 教員コア・コンピテンシー指標をもとに、オンラインの自己評価ツールのプロトタイプを Google Forms で作成。

② EAP 指導年数 1～4 年、5～9 年、10～14 年、15～19 年、20 年以上の各グループに属する現役大学英語教師にプロトタイプを使用してもらい、自己評価ツールの有用性についての聞き取り調査をもとに、改善のため文言など変更

③　ウェブサイトを開設し、（１）で作成した大学 EAP カリキュラム質保証指標モデルと EAP 教員コンピテンシー自己評価ツールを一般公開

４．研究成果

（１）EAP カリキュラム質保証指標モデル開発

本研究では、BAS の指標のうち英国に特化した項目を省き（Iijima et al., 2021）、国内大学の文脈に合う文言と実践例を加えた指標プロトタイプ 1～3 を段階的に作成した。国内大学の EAP カリキュラム担当者への質問紙・聞き取り調査の結果、BAS 認証評価５領域「学内での組織的位置づけ」「カリキュラム運営」「カリキュラム設計」「指導と学習」「学習の評価」の各指標項目（計 46 項目）のほとんどの項目について、国内 EAP カリキュラム運営担当者 8 人が「重要」と考え、すでに何らかの取り組みが実践されていることがわかった。このことは、回答者からの「実用的な EAP カリキュラムの構成要素を網羅している」というコメントにも表れている。本研究の指標モデルが、全学共通課程の一般学術目的の英語（EGAP）と学部共通課程の特定学術目的の英語（ESAP）カリキュラムにも関連性が高く、質保証の指標やカリキュラム・科目設計と運営の指針としての有用性が高いことが示された。一方で、「図書館と EAP カリキュラムの連携」「教員の授業観察」に関する項目は、大学によって重要度の程度が異なることがわかった。

本研究は、英国 BALEAP 学会の EAP プログラム質保証認証評価基準（BALEAP, 2018）が、国内大学学士課程における EAP カリキュラムにどの程度関連性があるかを検討し、既存の国内大学 EAP カリキュラムにおいて、質の保証と向上のためにすでに実践されている事例を統合することで、より国内大学の教育文脈に適した汎用性のある EAP カリキュラム指標モデル（飯島他, 2023）を開発した。BALEAP の認証評価基準は概ね日本への応用が可能である事が調査により確認出来たが、英国の大学向けに作られた理想的な EAP カリキュラムの実現や各指標項目の解釈は容易ではなく、文化的な文脈を考慮した EAP 教育の質保証についてさらに議論が必要であることも明らかとなった（飯島他, 2023）。

（２）EAP 教員コア・コンピテンシー指標モデル開発

BALEAP 学会 (2008) CFTEAP におけるコンピテンシー（competency） は、日本語では能力・資格・適性などと訳すことができるが、CFTEAP は、「教師が仕事の機能を完全に果たすために備えておくべき、技術的スキルと専門能力」（BALEAP, 2008, p. 2）と定義している。CFTEAP には、「学術的実践」「EAP 学生」「カリキュラム開発」「プログラムの実施」と４つの大カテゴリーがあり、各カテゴリーは２～４つの項目に細分化され、全体で１１項目となっている（表１）。各項目に「～の知識・ 理解」「～する能力」「参考となる指標（possible indicator）」 と３つの枠で、EAP 教員が持ち合わせているべきコンピテンシーが記述されている。日本の大学環境に適した項目であるかの精査と、用語の統一、日本語らしい表現への修正を行い、国内大学の教員養成や職能開発で言及されることのない、または現状と異なる項目などを検討した。その結果、今後の日本の EAP 教員養成で重要となると思われる項目は、１）「カリキュラム開発」、２）「学術的実践」の「専門分野による違い」、３）「EAP 学生」の「学生の批判的思考」という３つのコンピテンシーであることがわかった（マスワナ他, 2019）。また、EAP 教員を対象とした CFTEAP の資質・技能・知識の項目が日本の高等教育においても適切であるかの聞き取り調査の結果を受け、概ね適切ではあるが改善点として、(1) 属性項目の追加（EAP 教育、EAP 指導研修を受けた経験、EAP プログラム運営の経験）、 (2) 知識と能力を明示的に関連付け、 (3) 各項目について具体的に工夫していることを問う項目の追加、 (4) 日本の大学で EAP 教員に求められる資格や経験を問うセクションの追加、 (5) 元の文言に説明追加、を行った。この指標をもとに、教師自身の職能開発の支援リソースとして、EAP 教員を目指す者から、指導歴の浅い教員、中堅、ベテランの教員まで利用できる EAP 教員自己評価ツールを開発した。

表 1
BALEAP TEAP コンピテンシーの主項目

学術的実践	カリキュラム開発
1. 学術的文脈 2. 専門分野による違い 3. アカデミックディスコース 4. 個人による学び、発展、自律性	8. シラバスとプログラム開発 9. テクストの処理とテクスト産出
EAP 学生	**プログラム実施**
5. 学生ニーズ 6. 学生の批判的思考 7. 学生の自律	10. 教育の実践 11. 評価の実践

図１自己評価ツールの質問画面

（３）EAP 教員自己評価ツール開発と EAP 教育リソース整備

EAP 教員自己評価ツールには、日本の文脈に合わせて作成した表 1 の EAP 教員としての資質・能力全 165 項目を搭載した。自己評価ツールは Google Forms を活用し、これらの項目について 10 件法で尋ねる質問が 77 問、各項目に関わる授業中の具体的な指導法について実践しているものを選択式で尋ねる質問が 41 問、これと同じ内容を記述式で尋ねる質問が 1 問、合計で 119 問の質問が含まれている。残りの 46 問は回答者のプロフィールや、本自己評価ツールへの感想を選択式および記述式で尋ねるものである（図１）。自己評価の結果は、図２のように他の利用者平均との比較とともに表示される。また、数ヶ月または数年後に自己評価した際には、前回回答からの変化も表示される。

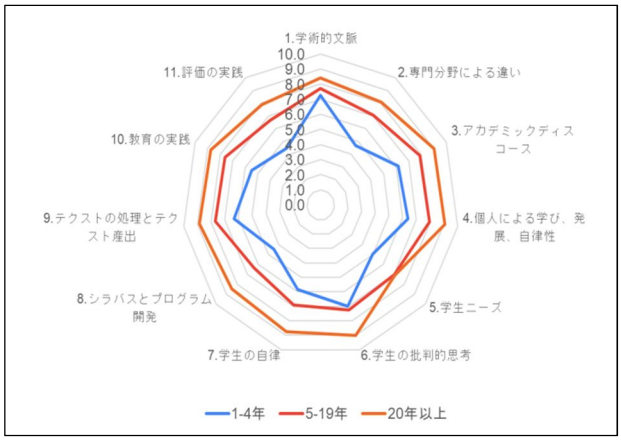

図２　EAP 教員自己評価平均のレーダーチャート

このツールの有効性を検証するため、経験年数の異なる新人・中堅・ベテラン 10 名の EAP 教員に実際に自己評価を行ってもらった結果、経験を重ねると自己評価が高まる傾向が見られた。平均して自己評価の高かった「1.学術的文脈」と「6.学生の批判的思考」については、今回協力を依頼した EAP 教員が研究者でもあり、学術的な背景をすでに有していることが理由と推測できた。EAP プログラムの質保証のためには、新人の自己評価が低い項目に焦点をあてた職能開発を考える必要があるが、本調査での新人 2 名ともに 10 点中平均が 4 点台であった項目は「2.専門分野による違い」「8.シラバスとプログラム開発」「11.評価の実践」の 3 項目であった。検証結果から、本ツールがコンピテンシーが備わっている項目とそうでない項目を明らかにすることができ、また、経験年数によって教員の自己評価が異なる傾向があることもわかり、自己評価ツールとしての一定の有用性が確認できた。今後の課題として、現在のツールでは指導実践のエビデンスが大まかな基準程度の記述にとどまっているため、客観的な指標として運用するためには、具体化が必要であることもわかった。今後より多くの EAP 教員からデータを収集し、コンピテンシー項目の適正化およびツールの使いやすさの改善を図ることで、日本の文脈で広く使うことのできる EAP 教員支援ツールが実現するであろう（マスワナ他, 2019, 2022）。

図３ 研究成果物を掲載したウェブサイト

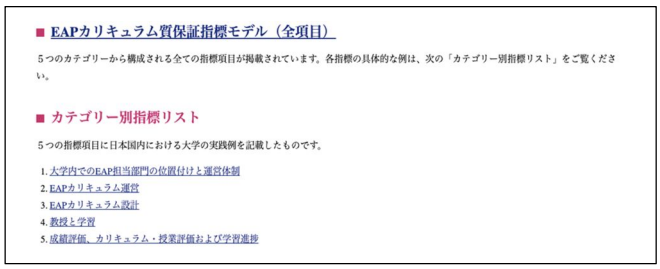

図４ EAP カリキュラム指標 PDF ファイルリンク画

図 5 EAP 教員自己評価ツール入口画面

この EAP 教員自己評価ツールと、EAP カリキュラム質保証指標モデルの全項目とカテゴリー別指標リスト（PDF 版）は、ウェブサイト「大学英語教育の質保証に向けた EAP カリキュラム・教員コンピテンシー指標モデル」（https://eaptc.h.kyoto-u.ac.jp/）で公開した（図３～５）。

引用文献

① BALEAP. (2008). Competency framework for teachers of English for Academic Purposes. https://www.baleap.org/wp-content/ uploads/2016/04/teap-competency-framework.pdf

② BALEAP. (2018). Accreditation scheme (BAS) handbook. https://www.baleap.org/wp-content/uploads/2016/04/BALEAPBAS-Handbook-January-2018-v-2.pdf

③ Iijima, Y., Maswana, S., Watari, H., Yamada, H., Takahashi, S., & Kanamaru, T. (7th

April, 2021). Developing Quality Assurance Benchmarks and Professional Development Schemes for EAP Education in Japan. BALEAP 2021 Conference.

④ 飯島優雅・渡寛法・渡辺敦子・寺内一. (2023). 「日本の学士課程 EAP カリキュラム指標モデルの構築に向けて」. JAAL in JACET Proceedings, 5, 53-58.

⑤ 飯島優雅・渡寛法・山田浩・マスワナ紗矢子・渡辺敦子・金丸敏幸・田地野彰・寺内一・高橋幸. (2023). *大学英語教育の質保証に向けた EAP カリキュラム・教員コンピテンシー指標モデル*. https://eaptc.h.kyoto-u.ac.jp/

⑥ 飯島優雅・渡辺敦子・マスワナ紗矢子・渡寛法・堀晋也・高橋幸・金丸敏幸・田地野彰・寺内一. (2016).「日本の大学における学術英語カリキュラムの現状と課題―実態調査結果を踏まえて―」『京都大学高等教育研究』22, 95-98.

⑦ 一般社団法人大学英語教育学会 EAP 調査研究特別委員会. (2018).「大学英語教育の質保証に向けた EAP カリキュラム実態把握調査」研究成果最終報告書（2014 年度～2017 年度）. https://www.eiken.or.jp/center_for_research/pdf/bulletin/vol99/ vol_99_17.pdf

⑧ マスワナ紗矢子・渡寛法・飯島優雅・渡辺敦子・高橋幸・金丸 敏幸・田地野彰・寺内一. (2019).「日本における EAP 教員 コンピテンシー枠組み構築の試み—BALEAP 学会による枠組みの日本語試訳を通じて—」 JAAL in JACET Proceedings, 1, 46–51.

⑨ マスワナ紗矢子・渡寛法・山田浩・飯島優雅・高橋幸・金丸 敏幸・寺内一・田地野彰. (2022). 「日本の大学における EAP 教員を対象とした自己評価ツールの開発」. JAAL in JACET Proceedings, 4, 72–77.

⑩ Terauchi, H., Noguchi, J., & Tajino, A. (Eds.). (2020). *Towards a New Paradigm for English Language Teaching: English for Specific Purposes in Asia and Beyond.* Routledge.

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計5件（うち査読付論文　5件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　5件）

１．著者名 Tajino, A	４．巻 7
２．論文標題 A soft systems approach to ELT research: Team learning and exploratory practice	５．発行年 2020年
３．雑誌名 JACET International Convention Selected Papers	６．最初と最後の頁 33-54
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 マスワナ 紗矢子・渡 寛法・飯島 優雅・渡辺 敦子・高橋 幸・金丸 敏幸・寺内 一・田地野 彰	４．巻 3
２．論文標題 EAP教員コンピテンシー枠組みと教員養成コース―英国の取り組み― (EAP Teacher Competency Framework: Findings from a Survey Study of British TEAP Courses)	５．発行年 2021年
３．雑誌名 JAAL in JACET Proceedings	６．最初と最後の頁 71-77
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 山田 浩	４．巻 3
２．論文標題 小学校教員養成課程学生の意識調査―外国語科における文法項目に焦点を当てて― (Perceptions of Primary School Pre-Service Teachers: Focusing on Grammatical Items in Foreign Languages)	５．発行年 2021年
３．雑誌名 JAAL in JACET Proceedings	６．最初と最後の頁 63-70
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 マスワナ紗矢子・渡寛法・山田浩・飯島優雅・高橋幸・金丸 敏幸・寺内一・田地野彰	４．巻 4
２．論文標題 日本の大学における EAP 教員を対象とした自己評価ツールの開発	５．発行年 2022年
３．雑誌名 JAAL in JACET Proceedings	６．最初と最後の頁 72-77
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 飯島優雅・渡寛法・渡辺敦子・寺内一	4．巻 5
2．論文標題 日本の学士課程 EAP カリキュラム指標モデルの構築に向けて	5．発行年 2023年
3．雑誌名 JAAL in JACET Proceedings	6．最初と最後の頁 53-58
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

〔学会発表〕　計16件（うち招待講演　1件／うち国際学会　7件）

1．発表者名 マスワナ紗矢子・渡寛法・山田浩・飯島優雅・渡辺敦子・高橋幸・金丸敏幸・寺内一・田地野彰
2．発表標題 EAP教育の質保証に向けた指標プロトタイプ作成（ポスター発表）
3．学会等名 第 3 回（2020 年度 ）JAAL in JACET 学術交流集会（国際学会）
4．発表年 2020年

1．発表者名 マスワナ 紗矢子・渡 寛法・飯島 優雅・渡辺 敦子・高橋 幸・金丸 敏幸・寺内 一・田地野 彰
2．発表標題 EAP教員コンピテンシー枠組みと教員養成コース―英国の取り組み― (EAP Teacher Competency Framework: Findings from a Survey Study of British TEAP Courses)
3．学会等名 第 3 回（2020 年度 ）JAAL in JACET 学術交流集会
4．発表年 2020年

1．発表者名 山田 浩
2．発表標題 小学校教員養成課程学生の意識調査―外国語科における文法項目に焦点を当てて― (Perceptions of Primary School Pre-Service Teachers: Focusing on Grammatical Items in Foreign Languages)
3．学会等名 第 3 回（2020 年度 ）JAAL in JACET 学術交流集会
4．発表年 2020年

１．発表者名 寺内一
２．発表標題 内容重視の英語教育の理想と現実―ESP・CLIL・EMI・CBI の整理と統合の可能性―
３．学会等名 大学英語教育学会九州・沖縄支部第31回研究大会（東海大学熊本キャンパス：基調講演）（招待講演）
４．発表年 2019年

１．発表者名 Sayako Maswana, Hironori Watari, Hiroshi Yamada, Yuka Iijima, Atsuko Watanabe, Sachi Takahashi, Toshiyuki Kanamaru, Akira Tajino, and Hajime Terauchi
２．発表標題 Analysis of Quality Assurance Criteria for University English Education（ポスター発表）
３．学会等名 The 58th JACET International Convention (Nagoya, 2019)（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 Sayako Maswana, Hironori Watari, Hiroshi Yamada, Yuka Iijima, Atsuko Watanabe, Sachi Takahashi, Toshiyuki Kanamaru, Akira Tajino, and Hajime Terauchi.
２．発表標題 Quality Assurance for University English Education（ポスター発表）
３．学会等名 第２回JAAL in JACET学術交流集会
４．発表年 2019年

１．発表者名 マスワナ紗矢子，寺内一，髙橋幸，金丸敏幸，田地野彰
２．発表標題 学習者視点を導入したEAPライティング技能評価ルーブリックの開発
３．学会等名 第203回大学英語教育学会 東アジア英語教育研究会
４．発表年 2019年

１．発表者名 田地野彰，野口ジュディー，マスワナ紗矢子，渡辺敦子，寺内一
２．発表標題 Towards a New Paradigm for Teaching English for Academic Purposes in Japan（パネルディスカッション）
３．学会等名 International Symposium on Teaching English for Academic Purposes (Campus Plaza Kyoto)（国際学会）
４．発表年 2020年

１．発表者名 マスワナ紗矢子，渡寛法，田地野彰
２．発表標題 日本の英語学習者を対象としたEAPライティング教材研究―EGPからEAPへの円滑な移行に向けて―
３．学会等名 第２回JAAL in JACET学術交流集会
４．発表年 2019年

１．発表者名 Maswana, S. and Watari, H
２．発表標題 Development of EAP writing materials that bridge EGP and EAP
３．学会等名 2019/28th ETA International Symposium on English Teaching and Book Fair（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 飯島優雅
２．発表標題 大学英語教育の質保証指標モデルとEAP教員コア・コンピテンシー枠組みの開発：研究計画と進捗
３．学会等名 International Symposium on Teaching English for Academic Purposes（国際学会）
４．発表年 2020年

１．発表者名 飯島優雅・山田浩・マスワナ紗矢子
２．発表標題 大学EAPプログラムの質保証ー英国の認証評価の仕組みと日本への示唆
３．学会等名 第203回大学英語教育学会東アジア英語教育研究会（西南学院大学）
４．発表年 2019年

１．発表者名 渡辺敦子
２．発表標題 EAP教師養成の可能性（パネルディスカッションTowards a New Paradigm for Teaching English for Academic Purposes in Japan）
３．学会等名 International Symposium on Teaching English for Academic Purposes: パネルディスカッションTowards a New Paradigm for Teaching English for Academic Purposes in Japan（国際学会）
４．発表年 2020年

１．発表者名 マスワナ紗矢子・渡寛法・山田浩・飯島優雅・高橋幸・金丸敏幸・寺内一・田地野彰
２．発表標題 日本の大学におけるEAP教員を対象とした自己評価ツールの開発
３．学会等名 第4回JAAL in JACET Proceedings学術交流集会
４．発表年 2021年

１．発表者名 マスワナ紗矢子
２．発表標題 日本人学生に適したEAP教材開発
３．学会等名 International Symposium on Teaching English for Academic Purposes（国際学会）
４．発表年 2020年

１．発表者名 飯島優雅・渡寛法・渡辺敦子・寺内一
２．発表標題 日本の学士課程 EAP カリキュラム指標モデルの構築に向けて
３．学会等名 第5回JAAL in JACET Proceedings学術交流集会
４．発表年 2022年

〔図書〕　計10件

１．著者名 寺内一	４．発行年 2020年
２．出版社 大修館書店	５．総ページ数 264
３．書名 教材・テスト作成のためのCEFR-Jガイドブック	

１．著者名 寺内一	４．発行年 2019年
２．出版社 学文社：東京	５．総ページ数 7
３．書名 木村松雄（編）新版英語科教育法，第15章「EGP教育からESP教育へ」213－219頁	

１．著者名 Terauchi, H. and Maswana, S.	４．発行年 2019年
２．出版社 Springer Singapore	５．総ページ数 14
３．書名 Tajino, A. (Ed.) A Systems Approach to Language Pedagogy, System Thinking: An ESP Genre Approach, pp. 133-146.	

1．著者名 Terauchi, H.	4．発行年 2020年
2．出版社 Routledge: UK	5．総ページ数 11
3．書名 Terauchi, H., Noguchi, J. and Tajino, A. (Eds.) Towards a New Paradigm for English Language Teaching: English for Specific Purposes from Asia and Beyond, ESP Today, pp.16-26	

1．著者名 Araki, T. and Terauchi, H.	4．発行年 2020年
2．出版社 Routledge: UK	5．総ページ数 7
3．書名 Terauchi, H., Noguchi, J. and Tajino, A. (Eds.) Towards a New Paradigm for English Language Teaching: English for Specific Purposes from Asia and Beyond, Conceptualizing the Discourse Community, pp.27-33.	

1．著者名 Terauchi, H. and Naito, H.	4．発行年 2020年
2．出版社 Routledge: UK	5．総ページ数 12
3．書名 Terauchi, H., Noguchi, J. and Tajino, A. (Eds.) Towards a New Paradigm for English Language Teaching: English for Specific Purposes from Asia and Beyond, English for Business Purposes (EBP) , pp.181-192.	

1．著者名 Yamada, M. Terauchi, H. and Miki, K.	4．発行年 2020年
2．出版社 Routledge: UK	5．総ページ数 11
3．書名 Terauchi, H., Noguchi, J. and Tajino, A. (Eds.) Towards a New Paradigm for English Language Teaching: English for Specific Purposes from Asia and Beyond, Material Development for EBP, pp.193-203.	

1．著者名 Maswana, S., and Tajino, A.	4．発行年 2020年
2．出版社 Routledge: UK	5．総ページ数 11
3．書名 Terauchi, H., Noguchi, J. and Tajino, A. (Eds.) Towards a New Paradigm for English Language Teaching: English for Specific Purposes from Asia and Beyond, ESP curriculum development: A systems approach, pp.66-76.	

1．著者名 Iijima, Y., Takahashi, S., Watanabe, A. and Watari, H.	4．発行年 2020年
2．出版社 Routledge: UK	5．総ページ数 14
3．書名 Terauchi, H., Noguchi, J. and Tajino, A. (Eds.) Towards a New Paradigm for English Language Teaching: English for Specific Purposes from Asia and Beyond, Ch. 8 EAP in Japan, pp.79-92	

1．著者名 Takahashi, S., Kanamaru, T. and Iijima, Y.	4．発行年 2020年
2．出版社 Routledge: UK	5．総ページ数 12
3．書名 Terauchi, H., Noguchi, J. and Tajino, A. (Eds.) Towards a New Paradigm for English Language Teaching: English for Specific Purposes from Asia and Beyond, Ch.14 EAP in undergraduate education, pp.152-163.	

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

6．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	渡　寛法 (Watari Hironori) (20732960)	日本大学・文理学部・准教授 (32665)	
研究分担者	寺内　一 (Terauchi Hajime) (50307146)	高千穂大学・商学部・教授 (32637)	

６．研究組織（つづき）

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	マスワナ　紗矢子 (Maswana Sayako) (60608933)	東京理科大学・教養教育研究院葛飾キャンパス教養部・准教授 (32660)	
研究分担者	渡辺　敦子 (Watanabe Atsuko) (70296797)	文教大学・文学部・教授 (32408)	
研究分担者	金丸　敏幸 (Kanamaru Toshiyuki) (70435791)	京都大学・国際高等教育院・准教授 (14301)	
研究分担者	田地野　彰 (Tajino Akira) (80289264)	名古屋外国語大学・外国語学部・教授 (33925)	
研究分担者	山田　浩 (Yamada Hiroshi) (80824763)	高千穂大学・商学部・准教授 (32637)	
研究分担者	高橋　幸 (Takahashi Sachi) (50398187)	京都大学・国際高等教育院・准教授 (14301)	2019年度のみ研究分担者

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究協力者	高橋　幸 (Takahashi Sachi)	科学技術振興機構	2020年度~2022年度研究協力者

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計1件

国際研究集会	開催年
International Symposium on Teaching English for Academic Purposes (Campus Plaza Kyoto)	2020年～2020年

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関